

釣れ釣れなるままに

2008年思い出の釣行記 PART. 1

思い込みを解く

鹿島釣狂



魚を捌いている途中で、本日の釣果を写真に収めていないことに気づき、シャッターを押す。タナゴは旨くないというのは単なる思い込みではなかった。

岩見沢釣遊会第1回大会

☆開催日	平成20年4月20日		
☆開催場所	須築港～瀬棚港		
☆入釣場所	吹込漁港左平盤		
☆釣果	アカハラ	371 mm	1
	ホッケ	375 mm	4
	重量	2520 g	
	合計点数	998 点	(2魚種身長+5匹重量)
☆成績	3 位		

釣具への思い込み

札幌に行く機会があり、用件を済ました後、外国名のついた某有名釣具店に立ち寄ってみました。手の届かなかった磯ブーツに思わぬ安い値札が付いており、靴底のフェルトが磨り減って用を足さなくなっていたこともあり、思い切って購入した。インナーにも穴が開いていたのだがそれは修繕のためのボンドを購入して対応することにした。

カーボン竿が出始めた1/4世紀も前に購入した25号投げ竿3本に様々な不具合（折れて短くなった竿先、底が抜けてテープで塞いだ竿尻、竿から離れそうになっているガイド、腰が抜けてしまった胴）が出ていた。それで、25号竿1本だけを購入しようと品定めしてから、その竿に見合ったものをとリールコーナーのカウンターで相談してみた。しかし、店員の懇切丁寧な説明を聞いていると、私が今まで竿や道糸に思い描いていたのは単なる思い込みではないのかと感ずることになった。

「この4000番のリールに縫糸2号、替えスプールには5号ナイロン糸を巻いて欲しいのですが」私の思いに彼は口を挟む。

「どのような釣りをするのですか？」

「砂浜や防波堤でカレイを狙おうと思っています」

「2号縫糸では太いと思いますよ。縫り糸は風や潮の抵抗を受けやすいので、私たちは遠投ができるようにと0.8～1号の縫り糸を巻いて、その先にテーパーラインを付けています。それでも、室蘭港の50cm程のクロガシラなら抜けますよ。」

「太平洋の昆布根原でも兼用したいのですが」

「それでは、ナイロン糸8号は必要です。昆布やホンダワラの中からカジカやアブラコを引き抜くには、それぐらいを用意しておかなくてはなりませんね。どの様な竿をお使いですか？」

「日本海では25号（EX）竿、太平洋では30号（CX）竿と使い分けています。岩場でも対応できるようにとローシートの4.5mを使っています」

「ローシートですか？ 釣り会に所属する人達は、以前から北海道仕様のローシートを好んで使っていましたが、遠投にはやっぱりハイシートをお勧めします。手元の振り幅が大

きくなるので、遠投には有利です。それに、潮が満ちてきた時には海に立ち込んでの釣りになりますので、ローシートだとリールが海水に浸かってしまいますよ。」

「その通りですね。しかし、コントロールを重視してローシートを使ってきたものですから・・・。」

「そうですか？それにしても長い竿ですね。遠投するなら4.05mの短い竿をお勧めします。長くてもせいぜい4.25mまでですね」

「磯際の根をかわしたりするのに長い竿を使ってきました。それに、短い方が飛ぶのですか？よく分かりませんが」

「短い竿の方が竿先のスピードが速くなるのですよ。私たち遠投競技をしている者は皆、短い竿を使っています」

「ピンときませんか？手元で振るスピードが同じならば、竿先の振り幅の大きくなる方がスピード出るように思うのですが・・・」

「???.....竿はCTがお勧めですよ」

「CTは竿が硬く魚の食い込みが悪いような気がするので、カレイやホッケを狙うときのために軟らかい竿が欲しいのです。30号で食い渋っていたホッケも25号に替えるとアタリが出るようになって思っています。」

「???.....私たちは、魚の食い込みには糸の張り方を調整して対応していますよ。問題ありません」

沢山のことを説明されている内に、結局、買おうとしていたハイシートのEX竿は次回に見送ることにした。そして、リールには2号縫糸の先に3号～15号の黒いテーパースラインを付けてもらった。しかし、どんな大物にも5号があれば対応できるという**思い込み**は拭えず、替スプールにはやはりナイロン糸5号を巻いてもらった。

釣りへの封印を解く

今年は例年になく雪融けが早く、3月末には夏タイヤに交換してしまうほどだった。4月に入ってからも温かく穏やかな日が続き、いつもの年ならば股引が離せないのだが、それも必要がなくなった。気温もグングン鰻登りとなり、大会の翌日には、芦別市で26.2℃の夏日を観測するなど、全道各地で観測史上最高気温を記録した。桜前線の北上も速く、札幌管区气象台が1953年の観測開始以来、最も早くサクラの開花を発表した。北海道神宮のソメイヨシノの標本木が十輪以上開花しているのを確認し、平年より14日も早く出したというのだ。今年は洞爺で先進国首脳会議（サミット）が開催されるが、地球温暖化を含めた環境問題が沸騰することになるのであろう。

本日の大会でも、この時期とは思えない雪代水が鉄砲水のごとく川面を覆っており、島歌川を渡ろうとした会員が徒渉を断念したということだ。また、海沿いの桜も満開で、釣果の恵まれなかった仲間が春の宵に任せて花見と洒落込んだりしたらしい。

私はこの大会が今年の初釣りである。春先から疼いていた釣りへの渴きを一気に潤した

いものだ。早速、仲間に先日のリール購入のいきさつを話しながら、どんな竿を使っているのかを聞いてみた。嵐会長はハイシートのCXを新規購入して、本日の釣行で試してみらしい。吉井氏や西川氏も新規購入を予定しており、ハイシートにするかどうかを悩んでいるということだ。ベテランであればあるほど、過去から引きずってきた思い込みをどの様に払拭していくかを悩んでいるのだ。

私は、釣り会に入ってからローシート仕様に慣れていたせいもあって、昔使用していた古ぼけたハイシート仕様は物置の隅に放置したままになっていた。先日の店員の話から、それを今日は竿ケースの中に忍ばせており、遠投の練習をしようと思っている。しかし、先輩達がリールに巻いている道糸のことは聞きだすことはできなかった。本日の釣行では、根掛かりした時に、道糸の縫り糸につないだテーパーラインとの繋ぎ目が切れてしまった。結節部であるテーパーラインのナイロン3号部分が弱いのだと思う。これまでだと、魚が付いていない方のハリスが切れたりして、獲物が上がってきたこともあるのだが、それは望めないようだ。テーパーラインの号数を工夫しなければと思う。

甘酸っぱい思いを封印

本日の狙いとしていた吹込平盤に人がいないのを確認してバスから降ろしてもらった。しかし、平盤の先端に近づいてみると2つの三脚に竿が2本ずつ並べられている。脇に置いてある赤いバツカンには美釣会の文字が刻まれていた。二人の女性が一緒だと気後れしてしまいそうだが、仄かな甘酸っぱい気持ちも働いてその後方に荷を下ろした。

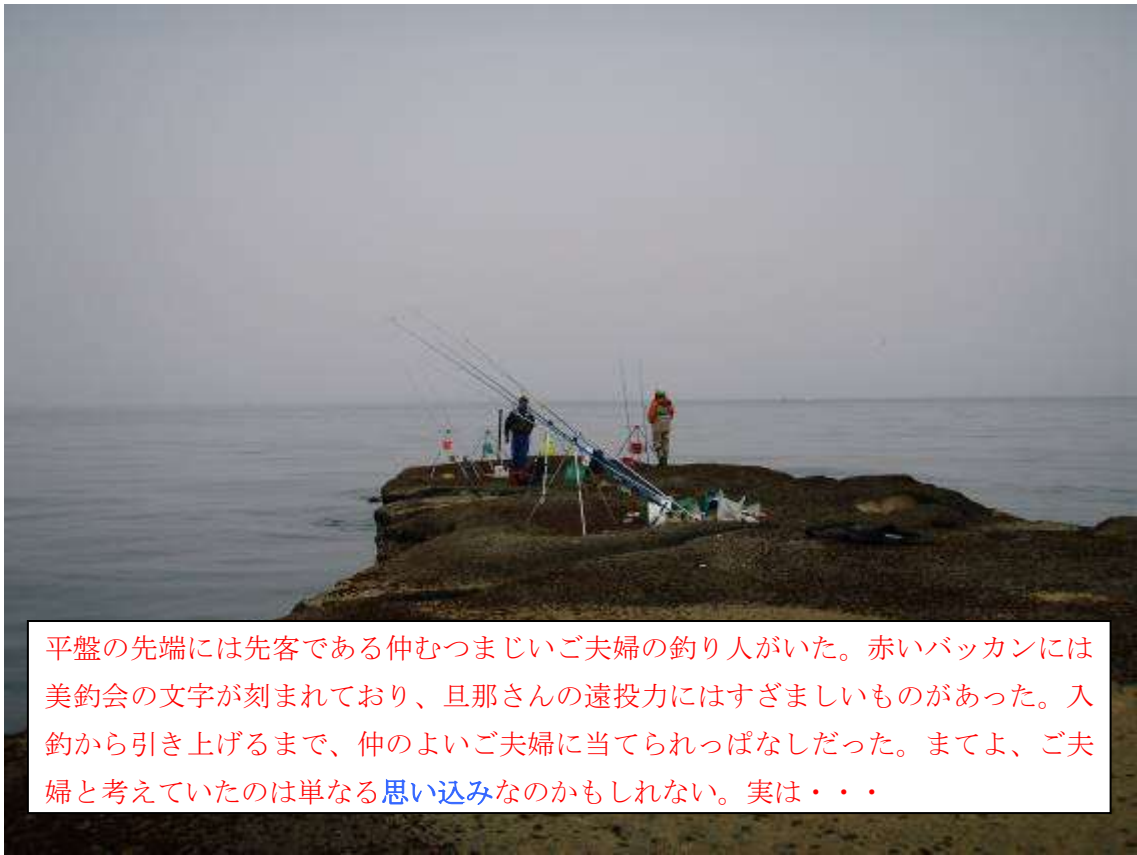


暗い内に釣り上げたガンジを潮だまりに放しておく。食してみたい気もするが……。顔はあどけないが、この頭はどう見てもゴジラだ。今にも口から火を噴くのではなからうか？ 憂いのあるガンジの瞳に負けて海にお帰り願う。

ドボンドボンと振り込んだ投げ竿にアタリがないまま時間が過ぎていく。ガンジがきたのを切っ掛けにして、磯竿を伸ばした。暇になってくるといろいろなことを試してみたくなるのだ。まずはゴロ10本ほどを引いてみるが、竿先には何の変化も起こらない。次にオオナゴを引いてみる。やはり何事も起こらない。海面が鏡のようにノッペリとして魚の活性が全く感じられないのだ。次にマキエを磯際に打ち込んでから小さなウキを通し、ハリス1.5号の先にチヌバリ4号を結びサンマをエサに放り込んだ。それに小ゾイとタナゴがパタパタと来たが、投げ竿にはやはりアタリは出ない。

そうこうしているうちに無人の竿の持ち主が現れた。美釣会の女性二人との思い込みは見事に外れ、夫婦釣り師のようである。甘酸っぱいような気持ちは封印して、一言二言挨拶を交わす。旦那さんの方は釣り会には所属していないが、遠投競技の大会に参加しているという。そして、奥さんはやはり美釣会の会員らしい。旦那さんはさらに竿を二本追加して素晴らしい遠投を繰り返す。本誌で札幌サーフの菅原隆氏が紹介していた構えをとってからビシッと竿を振り抜くと、仕掛けがきれいな弧を描いて遥か彼方の海面に音もなく吸い込まれていく。竿はスピンパワーの3本並継ぎ4.05mロッドで、私にはとてもとても手にすることが出来ない代物である。

見よう見まねで同じ構えをとってボロ竿を振ってみる。しかし、付け焼き刃では彼と同じようにはならない。手前で激しい音を立てたり、天ぷらになったり、左右にブレたりでままならない。こんなはずではないと力めば力むほどそのブレは激しくなる。



平盤の先端には先客である仲むつまじいご夫婦の釣り人がいた。赤いバツカンには美釣会の文字が刻まれており、旦那さんの遠投力にはすぎましいものがあった。入釣から引き上げるまで、仲のよいご夫婦に当てられっぱなしだった。まてよ、ご夫婦と考えていたのは単なる**思い込み**なのかもしれない。実は・・・

アタリが出ないことに併せて夫婦釣り師への気恥ずかしさもあり、島歌川の方に移動しようかと思案していると、酒を入れたペットボトルを片手に西川氏がやってきた。島歌川で嵐会長と並んで竿を出したが、アタリが出なく様子を見にやってきたということだ。会長の方も駄目なようだ。本日は最後までこの場で粘ることにする。

投げ竿にはやはりさっぱりアタリが出ない。ウキ釣りで遊んでいると、小ゾイやタナゴとは違った横方向にひかれる力強いアタリが伝わってきた。抜き上げると35cm程のアカハラである。投げ釣りがメインの釣遊会員としてこれでよいのかと疑問を感じながらもウキ釣りに集中する。相変わらずアタリのでない投げ竿をよそ目に小ゾイやタナゴに混じって35cm程のホッケも来るようになった。アカハラ1本とホッケ4本の2魚種5尾がそろったところで磯竿を片付けて本来の投げ釣りに徹する。

角解けた**思い込み**

西川氏が再度訪れた。あちこち状況を見て歩いたがどこも同じ様な展開だと知らせてくれる。暇に任せて用意したペットボトル酒もはかどったのか、足下がふらついているようにも思える。記念にと西川氏の足下のシャキッとしたところを狙ってシャッターを押す。そして、私の釣り姿も収めてもらった。釣りから帰ってプリントしてみると、どれもピンボケに加えてアングルが定まっていない画像ばかりが出て来た。どんなに酒を飲んでも足

下はしっかりしていると豪語する西川氏の**思い込み**を、この証拠写真を突きつけて覆してやりたい。



西川氏の足下がしっかりしているところを狙ってシャッターを押す。彼の右手は酒を入れたペットボトルを離さない。



酔いの回った西川氏にシャッターを押してもらったのだが、ピンボケに加えてアングルも定まらない。

先行者の若奥さんが竿を大きく曲げて50cm弱の雄アブラコを取り込んだ。しかし、本

日が大会ではなく個人釣行なので必要ないとすぐにリリースしてしまった。聞いてみると夫婦ともホッケは食べるがアブラコは食べないということだ。アブラコは旨くないという**思い込み**でもあるのだろうか。

リリースした雄アブラコの片割れを狙って岩盤の右側に移動し、吹込漁港外防波堤先端に向かって遠投する。ハイシートの扱いにも慣れてきた。それに、ホッケとクロガシラがダブルできたところで磯上がりの時刻となった。本日は天気がよくて楽な釣りが出来た。潮が透き通ったべた風の中でなんとか魚の顔を拝むことも出来たので、封印した甘酸っぱい思いを解いて平盤を後にした。

審査結果は

審査結果

優 勝	嵐 光博	1 1 2 7 点 (アブラコ392mm+カジカ 353mm+3820g)	島 歌 川
準 優 勝	堀内正博	1 0 2 6 点 (アブラコ403mm+ホッケ 343mm+2800g)	瀬棚最内
3 位	鹿島釣狂	9 9 8 点 (ホッケ 375mm+アカハラ371mm+2520g)	吹 込
4 位	阿部重義	9 4 3 点 (ホッケ 395mm+アブラコ314mm+2340g)	く の 字
5 位	相馬義博	8 4 2 点 (カジカ 431mm+カレイ 215mm+1960g)	須築旧港

で、西川氏が知らせてくれた嵐氏の情報は全くアテにならない**思い込み**だった。嵐氏の話からピンコと**思い込ん**でいた魚は、実はピンコではなかったのだ。それでもって嵐氏が良型のカジカやアブラコを揃えて優勝を飾った。

審査後に立ち寄る予定の食堂では、会員各々が注文するメニューをバスの中で確認して予約する必要があった。店主に聞いてみると、5月いっぱいまで店を閉めるということだ。以前は週末ともなると釣り客で満杯になって賑わったが、最近は釣りバスに乗ってくる人もまばらになり、倶知安町に移転する予定だという。こんなところにも、会員の減少に悩まされている釣り会の現実を垣間見ることになった。そして、会員で満杯になった釣りバスの再興を願いながら、余裕のある座席のシートを大きく後に倒して眠りについた。



ピンコという西川氏の思い込みを見事にはずして優勝した嵐会長

追記

○暗い中で釣りをしていると、海の沖の方からバイク音が響いてきた。調子が悪いのか、エンジン始動時のようにブルン、ブルン、ドットド、ドドドッとやっては、消えてしまう。西川氏の話では沖に突き出たガメ岩のトドが発する遠吠えだという。明るくなってからガメ岩を望むと、大きな2頭のトドが何やらむつまじく蠢いていた。本日、魚が薄かったのは自分の技術の未熟さばかりでなく、トドにもあったのだと**思い込ん**でいる。



水平線上に突き出たガメ岩にはトドが2頭蠢いていた。暗い内に響いてきたバイク音のような唸りの主は奴らだった。